三菱下関造船見学・学生フェリーツアーの報告

2022.9.23　事務局長　池田良穂

現役時代には学生を引き連れてフェリーを使った造船所見学ツアーをよく企画したものですが、後輩の教授から、また昔のような見学ツアーを企画してくれませんかとの依頼があり、日本クルーズ&フェリー学会の学生向け特別ツアーとして計画することとしました。対象は大阪府立大学(現大阪公立大学)で船舶工学を学ぶ学生に限定したもので、4 年生が中心ですが、大学院の学生も対象としました。訪れる造船所は、本会の団体会員の三菱下関造船所、乗船するフェリーも団体会員の名門大洋フェリーとして、関係者にお願いすると両者ともに快く引き受けてもらえました。

学内で募集してみると 14 名の学生が参加を希望して、片山教授(本会会員・監事)も一緒に参加してくれることになり、筆者も入れて総勢 16 名となりました。

大阪南港で乗船したのは、名門大洋フェリーの新造船「フェリーふくおか」。見学先の三菱下関造船所で建造された船です。一般乗客が乗る前の 18 時に乗船し、ブリッシでは船長と機関長の説明を聞かせてもらいました。4 年生は大学に入って 1 年後には新型コロナ禍に入り、対面での授業もほとんどなくなったとのことで、実際の船の操船を行うブリッジを実際に見るのはこれが初めて。オンラインで学んでいることがどのように使われているのかを説明を聞きながら理解しているようでした。その後船内の旅客施設を見学させてもらったあと、会議室で、名門大洋フェリーの山本常務からの「フェリー講座」と題する講義を聞かせていただきました。名門大洋フェリーの歴史、船体整備の現状、航路とダイヤ、カーフェリーの特徴、フェリーの社会的役割、環境対策、荷役の効率化等について幅広く学ぶことができました。中村工務担当部長も同席され、技術的な質問に答えていただきました。

その後レストランの一画で揃って夕食をとりました。バイキングでしたので、よく食べ、かつよく飲み楽しい時間が過ごせました。

ブリッジで真剣な様子で機関長の説明を聞く学生たち。

船長からは、操船の詳細の説明がありました。

会議室での山本取締役の「フェリー講座」の様子です。

レストランの一画をお借りして夕食会。

「フェリーふくおか」は、翌朝、8 時半に新門司港に到着。デッキに出て入港シーンを見学した学生も多かったようです。

下船後、連絡バスで門司港駅まで行き、そこからは自由行動。筆者は、下関駅まで列車で移動して、唐戸桟橋から巌流島まで往復しました。艤装中の、日本初の LNG フェリー「さんふらわあくれない」と姉妹船「さんふらわあむらさき」を造船所の外からウォッチング。参加者の何人かには巌流島で会いましたので、考えることは同じと感じました。きっとこの中から船を仕事にする学生もでてくることでしょう。

13 時に三菱下関造船所に集合して、瀧本造船設計部長の挨拶をいただき、その後、艤装中の「さんふらわあくれない」の内部を見学させていただきました。写真は NG だったので、ご紹介できないのが残念ですが、就航後にぜひ乗船してそのすばらしさを堪能してください。フェリーさんふらわあの親会社である商船三井から、同船の建造監督として派遣されている卒業生の女性技術者との会う機会に恵まれました。船の世界は意外に狭いものと感じました。

見学の後、会議室で「造船所の仕事の魅力」と題する講義があり、①LNG フェリーの船殻担当をとおして、②名門大洋フェリーの性能担当をとおして、③フェリーの船体建造をとおして、と題した 3 件について、フェリー建造に携わった若手技術者が仕事の魅力を熱く語ってくれました。

夜には、下関駅近くの居酒屋で、大学の OB、船会社の OG を囲んだ交流会を行いました。

このツアーの詳細は、11 月発行の会誌にも紹介しますのでお楽しみに。

最後に、お世話になった名門大洋フェリーの山本常務をはじめとするスタッフの皆様、三菱造船の瀧本部長をはじめとするスタッフの皆様に心から御礼申し上げます。

新門司港に入港直前に沖合で出会った名門大洋フェリーの「フェリーきたきゅうしゅうⅡ」です。

新門司港には「フェリーびざん」「いずみ」「せっつ」が並んでいました。

厳流島から見た、三菱下関造船所の艤装岸壁で艤装中の「さんふらわあくれない」の姿です。

「さんふらわあむらさき」はドックの中でプロペラの取付作業中でした。